

クスリ依存の女性たち

「助ける母として」

「自分の娘と思っている。死ぬまでに100人の娘ができればいいな」と語る。(加藤裕治)

東京都目黒区の住宅街にあるマンション。3LDKのリビングの壁沿いに薄型テレビ、電子ピアノ、時絵をあしらった簾、本棚が並び、部屋の中央に置かれたテーブルを千葉さんと次男の十枝真沙史さん(25)、入所している女性が囲んでいた。

女性は長年、薬物依存症に苦しんできた。「やめたいと思ってても自分ではどうしようもなかった」。しかし、昨年入院したことをきっかけに改めようと考え、薬物を断った。二月中旬から、病院で紹介された千葉さんの施設「SARS」(サーズ)で暮らす。施設では一日三度、ミ

歌手・千葉マリアさん

ーディングをする。ほか、買い物をしたり、部屋を掃除したり、料理をしたり…。依存症の時には「できない普通の生活。女性は「すぐ薬して勉強を重ねる」「サルビ」と語り、「マリアさん」と千葉さんを慕う。その様子に

千葉さんは「私も普通の生活をしていないのは同じ。若い時は全部マネジャーにやってもらっていたから」とほほ笑む。千葉さんはかつて、長男十枝晃太郎さん(30)の薬物依存症に苦しんだ。個人の意志だけではなかなか薬物を断つことがで



薬物の依存症で入所した女性と話す千葉マリアさんと次男の十枝真沙史さん＝東京都目黒区で

「入所者喜んでくれるようになった。乱暴な言葉遣いも、薬物がない、普通の生活があるということに気付いてもらえた」と手心えを感じている。

施設の運営費は千葉さんの持ち出し。収支が合うには「五人は入所していない」と(真沙史さん)。それでも千葉さんは、「月に一、二回は歌の仕事をこなしている。新曲も出る。なんとかなら」と気にせず進む。千葉さんと親交がある出版プロデューサーの高須基仁氏は「長男の薬物依存は自分が原因と、千葉さんは思っている。それでも彼女は依存症と闘い続けている。底力を感じる」と今後を見守る。

十あるタルクの施設を見ても、女性専門は決して多くない。だから「自分も女性。役に立ちたい」と、身を乗り出した。私費でマンションの一室を改装し、三月一日にオープン。千葉さんはここで住み込み、真沙史さんが運営を手伝う。リハ

施設を開き共同生活

施設では一日三度、ミ